

第 115 回番組審議会議事録

- 1 開催年月日 令和 4 年 3 月 28 日 (月)
- 2 開催場所 割烹さわ
- 3 出席について
 - 委員総数 13 人
 - 出席委員数 7 人
 - 出席委員の氏名 (敬称略)
 - 今井陽子 / 風間まり子 / 佐藤正幸
 - 清水一希 / 高井俊一郎 / 竹中隆
 - 松田和也
 - 欠席委員の氏名 (敬称略)
 - 相京恵 / 小澤健一 / 風間隆之
 - 高橋徹 / 吉井照雄 / 吉村巳之
 - ラジオ高崎 2 人
 - 専務執行役員 関口高史
 - 執行役員放送部長 吉良武夫
- 4 議題 ラジオ高崎の番組内容について
 - 「震災特別番組ハートフル RADIO」について
 - 番組全般について
 - その他
- 5 議事の概要 (別紙)
- 6 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日
 - ・書面 ラジオ高崎に備え置き
 - ・ホームページ ラジオ高崎ホームページ内 <http://www.takasaki.fm>
 - ・ラジオ高崎放送 令和 4 年 4 月 10 日(日) 午前 6 時 55 分～6 時 59 分

(別紙) 議事の概要

- ・専務執行役員関口高史より挨拶。
- ・執行役員放送部長吉良武夫より特別番組の紹介。
 - タゴスタジオ・レコーズ・タカサキ新設特番 ファンファーレ
 - 高崎芸術劇場 大友直人 Presents T-Shot Vol.5 戸澤采紀 ヴァイオリン・リサイタル
 - 交通事故ゼロをめざして～冬編～
 - 特番「冬タイヤ履く？履かない？」
 - 特番「飲酒運転 贖いの日々」
 - RADIO エコラボカフェ
 - クリスマス特番 One from the Heart 《TAKASAKI》
 - 高崎観光協会 Xmas イベントスペシャル
 - 「西山小雨の開運たかさき食堂」
 - 「&RADIO Xmas スペシャル」
 - 「POP UP Xmas スペシャル」
 - ビックカメラ高崎 山本優引退記念特番「キャッチ・ザ・ドリーム」
 - 年末年始特番
 - 「高崎新聞で振り返る今年の高崎」
 - 「&RADIO お正月スペシャル」
 - 「新春座談会 2022」
 - 「おはようサンデーお正月スペシャル」
 - 高崎芸術劇場 大友直人 Presents T-Shot Vol.6 上野通明 チェロ・リサイタル
 - 市長が語る高崎スタイル 特別編 英語するなら高崎でしょ
 - がんばれ受験生！
 - 震災特番ハートフル RADIO
 - 群馬から女子サッカーの頂点をめざして！パニーズ群馬 FC ホワイトスター
 - Sio.com 特別対談 谷村志穂×志尾睦子
 - 第 35 回高崎映画祭授賞式 生中継
- ・事務局より審議対象番組の説明。
 - 【番組名】震災特別番組「ハートフル RADIO」MC：篠原悠介
 - 【ゲスト】武山ひかる（東京福祉大学 3 年生）
野田紀子（エフエムたいはく 代表取締役）
 - 【本放送】3 月 11 日(金)14:30～ [24 分番組]
 - 【再放送】3 月 11 日(金)21:30～、3 月 12 日(土)7:00～

【内容】東日本大震災のあった3月11日に毎年放送している特別番組。今年は震災の記憶や教訓を後世に語り継ぐことの重要性について「伝える」をテーマに放送。宮城県出身で震災の記憶を語り継ごうと尽力する武山ひかるさんと、被災地のコミュニティ放送「エフエムたいはく」代表の野田紀子さんに「今の想い」や「未来への希望」を語ってもらった。

- ・番組説明とOA素材試聴のあと、他の番組も含めて広く意見を求めた。

委員各位の意見

震災特別番組「ハートフル RADIO」について

- 番組を通して東日本大震災から11年たったのだということを実感した。今回の放送テーマにもなっていたが、震災の記憶を風化させずに伝えていくことが重要だと思った。本放送中の発災時刻に黙とうの鐘の音が流れたが、高崎から被災地に思いを届けるような番組が、高崎での日頃の防災について考え直すきっかけにもなると思う。
- たまたま被災地の方と放送を聞いたが、その方は涙を流していた。東北から遠く離れた高崎で、今も被災地に寄り添うような放送をしてくれていること自体に感動したとのことだった。毎年続けて欲しい。
- FMたいはくの野田社長が「ラジオは声の表現のメディア」と話していたのが印象的だった。当たり前のことだが、改めて聞いて逆に新鮮だった。声のみというシンプルなメディアであるからこそ、心に届きやすいということもあると思う。
- インタビュアー篠原アナの会話のやり取りが、以前より自然に聞こえてスキルアップしたようだ。さらに研鑽を積んで欲しい。

その他の番組やラジオ高崎の取り組み全般について

- コンテンツを工夫して聴きごたえのある番組を制作していると思う。せっかくよい番組を作っているのだから、SNSや紙媒体で告知を強化するなどより一層多くの人に聞いてもらう仕組みがあるとよい。娯楽やメディアが多様化する中、特効薬のようなものはないので、ラジオ高崎に携わるすべての人が外に向けて地道にPRし続ける必要がある。

- 「エアープレイス」に出演しているゲストパーソナリティーは、高崎や群馬に縁があり発信力・影響力が大きいので、他のコミュニティ放送にはないラジオ高崎の魅力になっている。一方、地元のリスナーやスポンサーを増やしていくには、高崎市民が出演するコーナーや番組を増やすことが必要。「わいわいスポーツキッズ」は出演する子どもの親・祖父母・親戚とリスナーの広がりが見込める。このように市民が気軽に参加できる垣根の低い番組を制作してもらいたい。

- 「高崎芸術劇場 大友直人 Presents T-Shot シリーズ」は、会場にいなくても生の演奏が実感できる素晴らしい放送。さらに、会場では聴くことのできない大友直人さんの幕間ミニトークショーも魅力的。続けて欲しい企画である。

- 自動車での移動中にラジオ高崎を聞くことが多いが、交通安全啓発放送「交通事故ゼロをめざして」を車中で聞いて改めて安全運転への意識を強く持った。

- NHK 前橋との連携放送の中でラジオ高崎が紹介される際、テレビ画面にラジオ高崎の周波数 76.2 MHzを常に表示しておいてもらおうと PR 効果が大きくなると思う。

- 20～30 歳代のリスナー増につながる番組やゲストを考えるのもよい。

- 深夜帯の「Music Stream」をよく聞く、今後も素敵な曲を流して欲しい。

- ラジオ高崎オリジナルのアプリに「タイムフリー」の機能があるとよい。

以上